



各層の大屋根下に設けられた開閉式の換気窓は存在感を消すために細いフレームが用いられている

**温室用換気窓が実現した呼吸する半屋外空間**

沖縄県看護協会は、会員数増加や研修事業拡大に対応するため、沖縄県南部の医療福祉ゾーンに新たに看護研修センターを建設した。設計競技によって設計監理を受託した飯田善彦建築工房が示したのは、傾斜した丘陵に4層の建築が階段状に配置されたプラン。空調計画では地下にクールチューブを設けるなど先進技術を用いながらも、丘陵に吹く風を建築的な工夫で採り入れるなど、パッシブ性能を高めることで熱環境に対応している。4層吹き抜け空間は南側軒庇を三段にして直射日光を遮り、各階の

**沖縄県看護研修センター**

OKINAWA NURSING TRAINING CENTER

ラウンジを覆う大屋根は逆梁によって支持することで、内部から望む天井が平滑でダイナミックな表情を見せる。その各層間に採用されたのが換気通風用の連窓サッシ。建築内に引き込む光を妨げず、存在感を抑えるためフレームの太さは極力細く設計された。この突出し窓は農業用温室の屋根面に用いられる換気用サッシで、垂直面での使用は初めて。気温、風、降雨のセンサーによって自動開閉し、開口角度も調整される。建物内は、各研修室・執務室以外の共用部は半屋外と位置づけられ、亜熱帯の風が通り抜ける快適空間となっており、研修を受ける看護師や地域住民にも好評を博している。



**沖縄県看護研修センター**

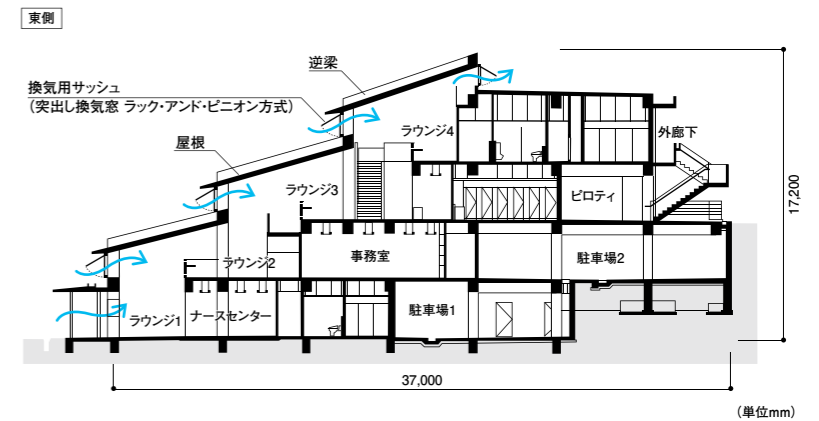
所在地 / 沖縄県島尻郡南風原町  
 建築主 / 公益社団法人沖縄県看護協会  
 設計・監理 / 株式会社飯田善彦建築工房  
 建築 / 株式会社東江建設  
 フレーム工事 / パナソニック環境エンジニアリング株式会社  
 竣工 / 2013年12月



逆梁によって実現された平滑な天井面に外光が反射して地明かりを確保している



気温、風、降雨センサーと連動して開閉するラック・アンド・ピニオン方式の突出し換気窓



**主な設備**

- 換気用サッシ
- ラック・アンド・ピニオン方式開閉装置